

資料

徳島大学共通教育アンケート調査による教育成果の検証 ——旧カリキュラム学生調査について——

松谷満・佐野勝徳・桑折範彦
(徳島大学 全学共通教育センター)

(キーワード: アンケート、点検評価、共通教育カリキュラム)

A Survey Report of General Education in the University of Tokushima -Student Evaluation Survey of the Old Curriculum-

Mitsuru MATSUTANI, Katsunori SANO and Norihiko KOORI
Center for General Education, The University of Tokushima

(Key Words: Survey Data, Self-Evaluation, General Education Curriculum)

1. はじめに

徳島大学全学共通教育(以下、共通教育と略す)では、2005年度から新カリキュラムの実施を始めた⁽¹⁾。旧カリキュラムからの移行は円滑になされたといえるが、教育における成果・効果という観点からは、どのような評価をなしうるだろうか。

全学共通教育センターでは、新カリキュラムの成果・効果を検証する目的で、2006年度から2007年度にかけてアンケート調査を実施することとした。具体的には、新旧カリキュラム下で共通教育を受講した学生に対し、同一のアンケート調査を実施し、両者の比較検討を行うというものである。

本稿は、2006年度に実施した旧カリキュラム学生調査について、データの開示と単純な分析を行い、今後の比較検討の資料を提示する。同時に、従来のカリキュラムでの教育の成果について、簡単にはあるが検証を行うこととしたい。

2. 調査の概要

本調査は旧カリキュラム学生を対象とする第一次調査と新カリキュラム学生を対象とする第二次調査からなる。第一次調査は2006年7月か

ら9月にかけて各学部で実施された。第二次調査は2007年5月頃に実施予定である。

本調査で使用した調査票は末尾に示している。個別の授業についてではなく、共通教育全般あるいは科目群単位で満足度や施設・設備の充実度などをたずねている。このような形式の調査は2002年にも実施され、自己点検評価の根拠資料として活用されている⁽²⁾。項目の検討に際しては2002年の調査を参考にしており、比較可能な項目については本稿でも若干ながら言及したい。

調査は2006年度時点の3年次生全員を対象に行われた。ただ、実際には特定の授業内で調査を行ったため、回収率にはばらつきがみられる(表1)。全体の回収率は69.1%、回収数は967であった。回収率は2002年調査とほぼ同程度である。

表1 調査実施状況

| | | 現員 | 回収数 | 回収率(%) |
|-------|----------|-----|-----|--------|
| 総合科学部 | 人間社会学科 | 177 | 68 | 38.4 |
| | 自然システム学科 | 85 | 45 | 52.9 |
| 医学部 | 医学科 | 95 | 92 | 96.8 |
| | 栄養学科 | 48 | 42 | 87.5 |
| | 保健学科 | 134 | 118 | 88.1 |
| 歯学部 | | 55 | 30 | 54.5 |
| 薬学部 | 薬学科 | 47 | 40 | 85.1 |
| | 製薬化学科 | 47 | 44 | 93.6 |
| 工学部 | 建設工学科 | 81 | 61 | 75.3 |
| | 機械工学科 | 138 | 98 | 71.0 |
| | 化学応用工学科 | 94 | 81 | 86.2 |
| | 電気電子工学科 | 145 | 95 | 65.5 |
| | 知能情報工学科 | 118 | 48 | 40.7 |
| | 生物工学科 | 77 | 51 | 66.2 |
| | 光応用工学科 | 59 | 45 | 76.3 |

注：総合科学部のうち9サンプルは学科所属が不明のため省略している。

3. 分析

本調査の質問項目は、(1) 共通教育全般について、(2) 各科目について、(3) 施設・設備についての3つに分類される。以下、それぞれについて全体の結果を検討し、また学部学科で明確な違いがみられたものについて説明を行う。

共通教育全般については、履修方法、履修の手引き、シラバス、履修科目の配分に関する4つの質問を行った。これらは教育の質自体を問うものではないが、学びのサポートが十分になされているかを検討するうえで見過ごすことはできない。

3_1 共通教育全般について

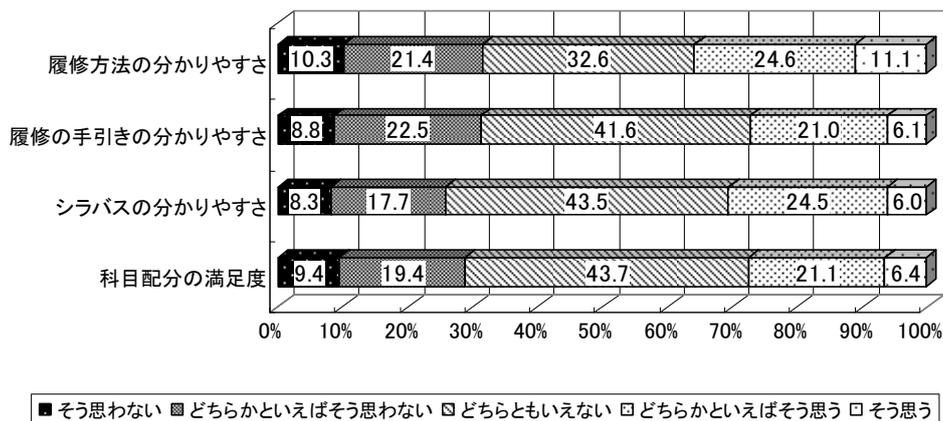


図1 共通教育全般について

図1に全体の回答の分布を示した。この4問については、学部学科ごとの違いがまったくみられなかったため、全体の傾向のみを確認しておく。

まず、履修方法の分かりやすさについては「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答が35.7%、逆に「そう思わない」「どちらかとい

えばそう思わない」という回答が31.7%であった。

履修関連の配布資料である「履修の手引き」「シラバス」については分かりやすいという回答がそれぞれ27.2%、30.5%であるのに対し、分かりにくいという回答がそれぞれ31.3%、26.0%であった。それほど大きな差ではないが、学生は手引きのほうがより分かりにくいという印象を持っているようだ。

また、履修科目の配分が満足できるものだったかという問いに対しては、27.5%が満足できる、28.8%が満足できないという回答であった。これらの傾向が新カリキュラムにおいてどのように

変化しているのか、今後の調査で検討が必要であろう。

3_2 各科目について

各科目については、満足度を中心に8つの質問を行った。図2に全体の回答の分布を示している。

5つの科目に関して満足度をたずねた。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が「満足している」、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が「満足していない」回答群とみなすことができる。

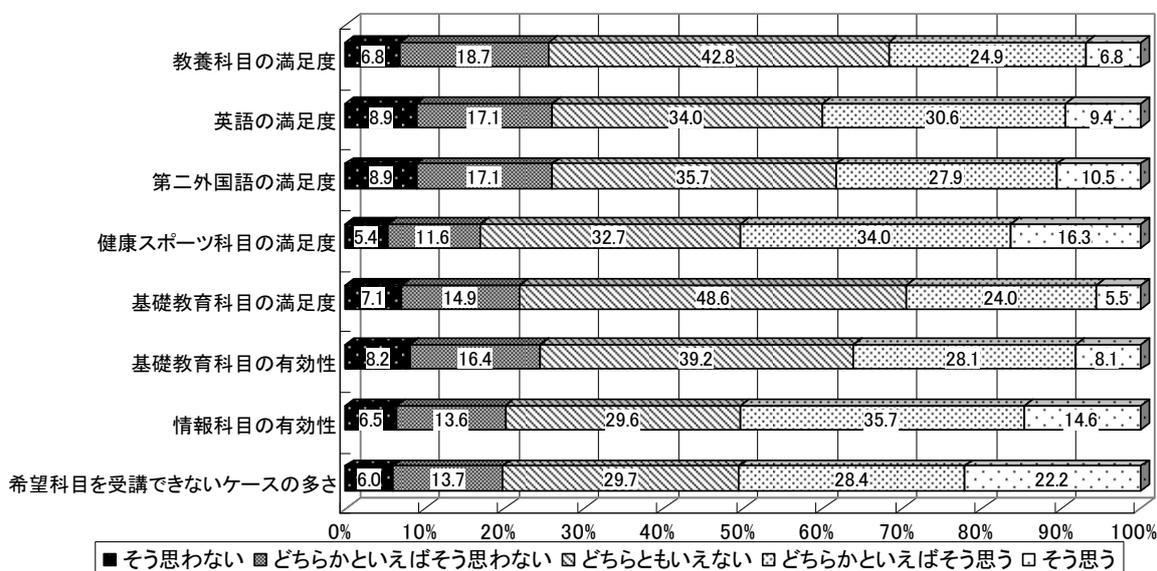


図2 各科目について

「満足している」割合は教養科目で31.7%、英語で40.0%、第二外国語で38.4%、健康スポーツ科目で50.3%、基礎教育科目で29.5%であった。一方、「満足していない」割合は教養科目で25.5%、英語で26.0%、第二外国語で26.0%、健康スポーツ科目で17.0%、基礎教育科目で22.0%であった。

各科目を比較すると、健康スポーツ科目がもっとも満足度が高く、次いで外国語科目となっており、教養科目と基礎教育科目は相対的に満足度が低い。ただ、基礎教育科目では「どちらともいえ

ない」とする回答が多かった。

各科目の満足度を学部学科別にみると、それぞれ特徴的な違いがみられる(表2)。総合科学部人間社会科学科はすべての科目で満足度が高くなっている。自然システム学科は外国語科目の満足度が低い。医学部医学科は総じて満足度が低く、とりわけ基礎教育科目の満足度が低い。栄養学科は教養科目と第二外国語で、保健学科は基礎教育科目でとくに満足度が低かった。歯学部はすべての科目で中間値(3)を下回り、満足度が目立って

低くなっている。薬学部は2学科ともとくに満足度の低い科目はなかった。工学部は基礎教育科目よりむしろそれ以外の科目で満足度が低い学科が目立った。電気電子工学科は教養科目で、知能

情報工学科は第二外国語と健康スポーツ科目で、光応用工学科は教養科目と外国語科目でとくに満足度が低かった。

表2 満足度の平均値

| | | 教養 | 英語 | 第二外国語 | 健康スポーツ | 基礎教育 |
|-------|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 総合科学部 | 人間社会学科 | 3.47 | 3.21 | 3.94 | 3.90 | |
| | 自然システム学科 | 3.16 | <u>2.91</u> | <u>2.96</u> | 3.67 | |
| 医学部 | 医学科 | <u>2.73</u> | <u>2.88</u> | <u>2.81</u> | 3.18 | <u>2.60</u> |
| | 栄養学科 | <u>2.88</u> | 3.19 | <u>2.67</u> | 3.12 | 3.00 |
| | 保健学科 | 3.15 | 3.26 | 3.20 | 3.60 | <u>2.98</u> |
| 歯学部 | | <u>2.66</u> | <u>2.79</u> | <u>2.79</u> | <u>2.93</u> | <u>2.81</u> |
| 薬学部 | 薬学科 | 3.05 | 3.43 | 3.23 | 3.43 | 3.15 |
| | 製薬化学科 | 3.07 | 3.36 | 3.30 | 3.48 | 3.41 |
| 工学部 | 建設工学科 | 3.16 | 3.00 | 3.20 | 3.40 | 3.18 |
| | 機械工学科 | 3.15 | 3.27 | 3.13 | 3.55 | 3.10 |
| | 化学応用工学科 | 3.14 | 3.16 | 3.25 | 3.47 | 3.30 |
| | 電気電子工学科 | <u>2.86</u> | 3.18 | 3.26 | 3.57 | 3.13 |
| | 知能情報工学科 | 3.10 | 3.33 | <u>2.85</u> | <u>2.96</u> | 3.02 |
| | 生物工学科 | 3.20 | 3.16 | 3.31 | 3.34 | 3.14 |
| | 光応用工学科 | <u>2.93</u> | <u>2.82</u> | <u>2.59</u> | 3.29 | 3.00 |
| 計 | | 3.06 | 3.14 | 3.14 | 3.44 | 3.06 |

注：全学科間の平均値を比較した F 検定の結果、すべて 5%水準で有意。なお、工学部の各学科には夜間主も含まれている。中間値 (3) 未満のものに下線を付した。

基礎教育科目および情報科目については、満足度に加えて有効性もたずねている (図 2)。基礎教育科目は専門分野での学習に役に立つか、情報科目はパソコンの使い方の勉強になったかを質問した。前者については、36.2%が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答し、24.6%が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した。

学部学科別では、基礎教育科目が役に立つと考えているのは薬学部、電気電子工学科で多く、逆に医学部医学科、歯学部で少なかった。情報科目については、総合科学部人間社会学科がもっとも勉強になったと考えており、逆に工学部知能情報工学科は勉強にならなかったという回答が多くみられた。

教養科目については、抽選などにより希望科目を受講できないケースが多すぎると思うかどうかたずねている (図 2)。この質問については「そ

う思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせると 50.6%であり、過半数が希望科目の受講状況について不満を抱いていることが分かった。これについては学部学科での違いはみられなかった。

各科目に関する質問について、2002 年の調査結果との共通点についても記述しておこう。共通しているほど、調査時点ごとの学生に左右されない学部学科の特徴を把握することが可能であろう。

まず、2 回の調査とも総合科学部人間社会学科で教養科目の満足度が高い。これは同学科のみが文系学科であるため、人文社会系の科目への関心が相対的に高いことによるのであろう。

また、情報科目について総合科学部人間社会学科、医学部栄養学科などが役に立つという回答が多く、工学部知能情報工学科で少ないという傾向も 2 回の調査で共通していた。おそらく、パソコンをすでに使いこなしている学生は、情報科目の

内容を物足りなく思い、逆にパソコンにあまり接したことの少ない学生にとっては役に立つ授業として認識されているのであろう。新カリキュラムでは知能情報工学科などで情報科目を除外することとなったが、調査結果からみて適切な対応だったと考えられよう。

基礎教育科目について医学部医学科、歯学部がとくに専門分野での学習に役に立たないと考えているという結果も前回調査と同様であった。新カリキュラム学生調査の結果をまつ必要がある

が、これらの学部学科については、基礎教育の内容の再検討および専門分野と結びつける動機づけをよりしっかり行う必要がある。

3_3 施設・設備と学習支援について

施設・設備と学習支援については、6つの質問を行った。学習環境への評価だけでなく、学習支援室やオフィスアワーなどの利用状況もたずねている(図3および図4)。

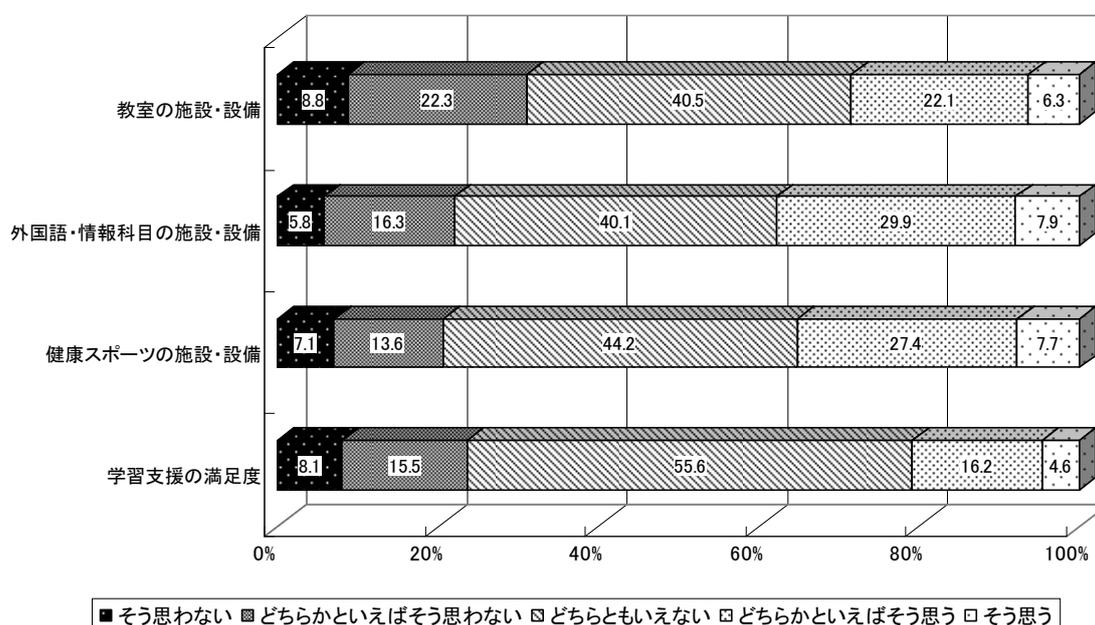


図3 施設・設備と学習支援について

十分に整備されているとの回答は、教室で28.4%、外国語・情報科目で37.8%、健康スポーツで35.1%だった。逆に整備されていないとの回答は、教室で31.1%、外国語・情報科目で22.1%、健康スポーツで20.7%だった。なお、どの質問でも「どちらともいえない」という回答が4割を超えていた。この3問の比較においては、教室の施設・設備の整備がより求められているといえよう。

学習支援については、20.8%が満足しており、23.6%が満足していないという回答であった。満足していないという回答が多かったのは、歯学部、医学部栄養学科、工学部建設工学科、知能情報工

学科であった。一方、満足しているという回答が多かったのは総合科学部人間社会学科、薬学部二学科、工学部化学応用工学科であった。少なくとも、共通教育における学習支援という点については学部学科において大きな差はみられないはずである。今回違いがみられた点が、学部学科の特徴としてとらえるべきものなのか、そうだとすればなぜそのような違いが生じるのか、新カリキュラム調査も含めて検討の必要があるだろう。

最後に、学習支援室とオフィスアワーの利用状況をみておきたい。図4に学部学科別の結果を示した。

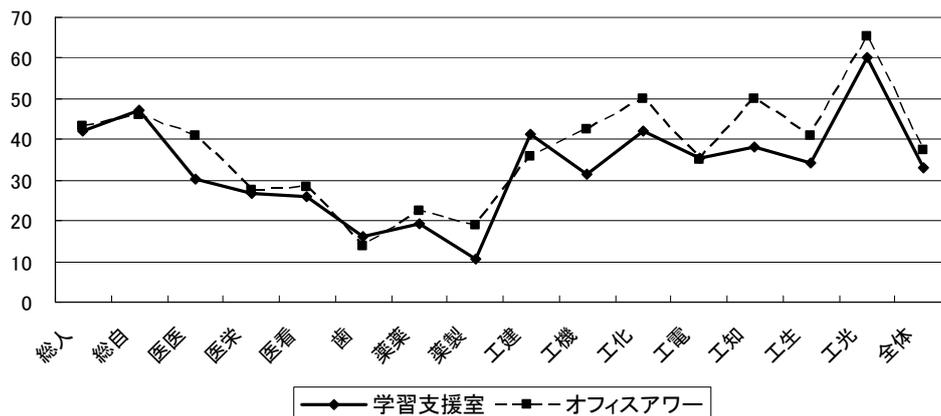


図4 学習支援室とオフィスアワーの利用率 (パーセント)

注：カイ二乗検定 (df=14) の結果、ともに1%水準で有意。

全体では、学習支援室の利用が33.1%、オフィスアワーの利用が37.5%である。旧カリキュラムの時点では利用率はそれほど高いとはいえない。

学習支援室の利用が多いのは工学部光応用工学科(60.0%)、総合科学部自然システム学科(47.4%)、工学部化学応用工学科(42.2%)などであった。

オフィスアワーの利用が多いのは工学部光応用工学科(65.2%)、工学部化学応用工学科と知能情報工学科(50.0%)、総合科学部自然システム学科(45.9%)などであった。

結果から明らかなように、常三島キャンパスの学部で利用が多く、蔵本キャンパスの学部で利用が少ないという傾向があることが分かった。これは共通教育の教員のほとんどが常三島キャンパスに研究室を持っていること、学習支援室が常三島キャンパスにあることなどが影響しているであろう。この点については、学生の需要なども加味して、今後何らかの対応策が必要かもしれない。

4. おわりに

これまで共通教育の旧カリキュラム学生調査について結果の概要をみてきた。今回の分析で注目すべき点を整理し、今後に向けた課題を示しておこう。

共通教育全般については、履修の方法や手引き、

シラバスが分かりやすいか、科目の配分が満足できるかをたずねた。どの項目でも、3割前後が肯定的、2-3割程度が否定的な回答を示すという結果であった。方法や手引き等については引き続き改善に努め、より多くの学生が分かりやすいと思えるものを提供する必要があるだろう。また、科目の配分については、より具体的な問題点などを改めて調査する必要があるかもしれない。

各科目については、満足度、有効性、希望科目の受講状況をたずねた。満足度、有効性ともに「満足していない」「役に立たない」という否定的な回答は1/4以下にとどまっているものの、3-4割程度が「どちらともいえない」と回答し肯定的な評価にはいたっていない。したがって、さらなる改善を目指していくべきであろう。その際、学部学科で違いの大きい部分にとくに注意する必要があるだろう。例えば、医学部医学科および歯学部でなぜ共通教育全般の満足度が低いのか、といった点について慎重な検討を要するだろう。

また、希望する科目が受講できないケースが多すぎると考える学生が過半数を超えているのはやはり問題である。新カリキュラム学生調査の結果もふまえて、何らかの対応を検討する必要がある。

施設・設備の整備および支援の充実についてもさらなる取り組みが必要とされよう。ただ、施設・設備については近年、急速に整備されつつある。今後はむしろ、学習支援をいかに充実させて

いくかに重点を置くべきであろう。

本調査からは、学習支援に不満もないが満足もしていないという学生が過半数を超えていることが分かった。また、分析結果は示さなかったが、オフィスアワーや学習支援室を利用した経験がある者が、学習支援に満足しているとは必ずしもいえないことが分かっている。

こうした点をふまえるならば、どのような支援のあり方が望ましいのか、学生も含めた検討の場が必要になってきているといえる。徳島大学では2004年度に「教育の質の向上のための学生ワーキング・グループ」が発足し、意見箱の設置などの活動を行っている。こうした組織との連携の強化が求められよう。

以上、本調査の結果について簡単な整理を行ったが、来年度に予定している新カリキュラム学生調査とあわせて、さらなる分析と検討を行ってきたい。

また、本調査は共通教育全般に対する学生の評価をなるべく簡易な質問項目から把握することに主眼が置かれたため、そのような評価がなされる「要因」の解明に向けては不十分なものであることは否めない。今後、評価をめぐる要因分析も可能な調査を企画していく必要がある。

近年、全学共通教育センターでは「授業方法に関する中間アンケート」「授業参観制度」などさまざまな試みを精力的に実施している⁽³⁾。これらの試みを粘り強く継続させるとともに、全学的なFD活動においても十分に活用していきたい。本稿で取り上げた調査も含め、各種の取り組みが相補的に機能すれば、教育成果の検証が十分になされることとなり、教育の質の向上にむけた取り組みもいっそう活発となるに違いない。

〔注〕

(1) 新カリキュラム実施の経緯については、桑折範彦「徳島大学全学共通教育新カリキュラムの概要」『大学教育研究ジャーナル』第2号、81-91頁、2005年。を参照されたい。

(2) 全学共通教育センター『3年生に対する全

学共通教育アンケート調査報告書』,2002年。

(3) 全学共通教育センターの近年の試みについては、以下の文献を参照されたい。

桑折範彦・佐野勝徳・松谷満・村田明広・桂修治、平井松午「全学共通教育における学生による授業評価と授業改善のシステム」『大学教育研究ジャーナル』第3号、2006年。

松谷満・桑折範彦・平井正午・佐竹昌之「全学共通教育の現状と課題——学生による授業評価アンケート調査の分析から」『大学教育研究ジャーナル』第2号、2005年。

松谷満・桑折範彦・佐野勝徳「授業方法に関する中間アンケートの効果分析——授業評価の新たな試みと課題」『大学教育研究ジャーナル』第3号、2006年。

【参考資料】調査票

全学共通教育アンケート調査について (お願い)

全学共通教育センター運営委員会

このたび、全学共通教育をさらに充実・発展させるために、アンケート調査を3年生に対して実施しますので、ご協力くださるようお願いいたします。あなたが1~2年次に受講した全学共通教育の授業についてお答えください。裏面の記入例に従って、各項目の評価値(数字)をマークカードに鉛筆でマークしてください。

| | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらともいえない | どちらかといえばそう思わない | そう思わない |
|---|------|--------------|-----------|----------------|--------|
| A. 共通教育全般についてお聞きします | | | | | |
| ① 履修方法は分かりやすかったですか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ② 履修の手引きは分かりやすかったですか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ③ シラバスは分かりやすかったですか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ④ 履修科目の配分は満足できるものでしたか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| B. 各科目についてお聞きします | | | | | |
| ⑤ 教養科目の授業は満足できるものでしたか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑥ 英語の授業は満足できるものでしたか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑦ 第二外国語の授業は満足できるものでしたか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑧ 健康スポーツ科目は満足できるものでしたか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑨ 基礎教育科目の授業は満足できるものでしたか (基礎教育科目履修者のみ回答) | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑩ 基礎教育科目は専門分野での学習に役に立つと思いますか (基礎教育科目履修者のみ回答) | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑪ 情報科目はパソコンの使い方などの勉強になりましたか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑫ 教養科目について、希望科目を受講できないケースが多すぎると 思いますか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| C. 施設・設備等についてお聞きします | | | | | |
| ⑬ 教室の施設・設備は十分整っていましたか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑭ 外国語科目や情報科目に関する施設・設備(パソコンなど)は十分整っていましたか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑮ 健康スポーツ実習に関する施設・設備は十分整っていましたか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑯ 学習に対する支援は満足できるものでしたか | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑰ 学習支援室を利用したことがありますか | 1 | はい | 2 | いいえ | |
| ⑱ オフィスアワーに教員に相談に行ったことがありますか | 1 | はい | 2 | いいえ | |

* 共通教育に対するご意見等ありましたらマークカード裏面に記入してください。